



みどり豊かな狭山の地で 日々研鑽と努力を積み重ね 伝統工芸の技と美しさを後世に伝えたい

柏原地区在住で刀剣研ぎ師の森井鐵太郎さんは、日本美術刀剣保存協会主催の平成19年度刀剣研磨・外装技術発表会の研磨の部で特賞を受賞しました。約70名の参加者の中で、特賞6人の一人に選出されたものです。

一口に日本刀を研ぐといっても、包丁やナイフを研ぐのとは根本的に違い、何種類もの研ぎの工程に合わせ、研石をいかに的確に選択するかが重要となります。これまで、繊細で微妙な研ぎの技術の習得のため、ただひたすら修業に励んできました。仕上げられた刀の美しさは、見る者を強く引きつけ魅了する、日本が世界に誇れる芸術です。

「研ぎの技は、刀剣研ぎ師自身が模索しなければなりません。そのため、修業は常に試行錯誤の連続でした。何回やってもうまくいかない場合も、繰り返し挑戦していくうちに、知らず知らず、壁を超えられるようになるのです。研ぎのたくみには、ここまでが目標というような明確なゴールは決して存在しません」といいます。

森井さんが、この仕事についてよかったと思うのは、平安、鎌倉の時代に作られた名

刀に、直接自分の手で触れ、それらの美しさを守り、後世に伝える、橋渡しとしての役割を実感できることです。刀の持つている美しさを引き出すことが私の仕事であり、自身の個を主張するのは、私の仕事ではありません」と語る森井さんは、刀剣研ぎ師だった父を見て、この道に入る決意をしました。そして、高校卒業後本格的に修業するため、東京で研ぎ師・藤代興里氏に弟子入りし、12年間修業しました。昨年、独立に伴い西武線沿いに居住地を求め、いろいろ探しましたが、その過程でたまたま入間川の橋の上から見た風景が、故郷・鳥取県米子に似ていて、大変懐かしく思い、住むことにしました。都心に近く、緑豊かで、静かなところが気に入ったそうです。



自分の理想を追求する毎日

「研ぎ師には、興味とやる気さえあれば、だれでもなれる仕事です。まずは、博物館へ行って、一度、日本刀を見てください。そして、刀の持つ美しさを実感してみてください」と市民やさやまっ子にメッセージをいただきました。森井さんの最大の使命は、長く歴史に残っていく刀の美を、品格を損なわずに伝統に育まれた技術で守り、確実に後世に伝えることです。また、自分の仕事をとおして、市民の一人として、狭山市に貢献できればと考えています。

刀剣研ぎ師

森井 鐵太郎さん(柏原在住)

オピニオン

楽しく遊びながら音やリズムで英語を吸収しよう



山本万里子さん
(笹井在住)

わが家の小学6年生の息子は、今学校で行われている英語活動を楽しみにしています。国際化が進む中で、国際共通語としての英語はますます重要になっています。狭山市は、小学校で英語に親しむ活動が活発に行われていることは、素晴らしいことだと思います。小学生のうちから英語に興味を持っていれば、

中学校で英語の授業を始めるときもスムーズに入り込めるのではないのでしょうか。

しかし、小さな子ども達に、英語に興味を持ってもらうようにするのは、大変難しいと思います。小学生のころから、英語を学問として教えると、子ども達が興味を持つどころか、中学生になってから英語を嫌いになるのではないかと心配です。文字でなく、音やリズムで楽しく遊びながら体にしみ込むような方法で、子ども達が英語に触れられるようにするのがよいと思います。

市の考え方

大変貴重なご意見どうもありがとうございます。国際化が進展する中、英語の国際共通語としての重要性はますます増大しています。こうした中で、市では、国の構造改革特区として認定されたことにより、小学校に英語活動を導入することができました。特区では、思考力が柔軟で臆せず話せる小学生から英語活動に取り組み、ネイティブスピーカーのALT（英語指導助手）や英語活動支援員から生きた英語に触れることによって国際感覚を養い、国際交流活動の進展や地域の活性化を図ることを目的としています。ご指摘のとおり、子ども達が自然に英語に親しむことができるように、活動内容を工夫していきたいと考えています。

担当 教育センター

皆さんの「声」をお待ちしています。
お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代)
✉koho@city.sayama.saitama.jp

2953 1518
皆さんの「声」をお待ちしています。お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代) ✉koho@city.sayama.saitama.jp
私達は活動が続いています。毎週欠かさず、根気よく、私問合せ笹本真爾さんへ

私の宝物 ...

ハサミがつなぐ家族のきずな

私は社会に出て8年間、美容師をしていましたが、結婚後は狭山市に来て、仕事を離れることになりました。しかし、主人も祖父も子ども達も、私に髪を切ってもらう諸口ふく代さんのが習慣になっていて、手元に残る専門のハサミは、今でも大活躍しています。ひと月半ごとに家に帰ってくる、



理容師だった叔父からもらった思い出の品物

遠く離れて住む長男の髪を切るのも、私の楽しみになりました。主人や療養中の祖父も、私の散髪が一番安心といってくれます。

このハサミを手にするとき、いつも家族の温かいきずなを感じさせてくれる大切な宝物です。

今回は、友人で入間川にお住まいの方をご紹介します。

Hello ハロー仲間たち

Vol.319



晴れの日も雨や雪の日も、年間50回は続けています

月曜ウォーキング

私たちの会は、平成10年に健康増進と親睦を目的に始めたもので、今年で10周年を迎えました。約40名ほどの仲間が、気の向くままに毎週月曜日の午前9時に広瀬公民館に集合し、準備体操の後、ウォーキングに出かけます。

歩くコースは、目的地によって、数キロから10キロ程度ですが、四季の移り変わりを感しながら、市内の緑豊かな道を歩くのは本当に気持ちがいいものです。平均年齢は65歳を超えますが、みんな元気いっぱい、風邪を引きにくくなったり、腰痛が治ったり、健康を取り戻した人も大勢います。歩くことは私たちに最も適した運動なので、そのために、無理なく歩けるようにスピードやコースを考え、全員が長く続けられることをいつも心がけています。